

## 地域包括ケアネットワーク No.84

### 圏域地域ケア会議でのケアキャビネットweb機能活用

浅口医師会会長 福嶋 啓祐

浅口医師会では、在宅医療・介護連携に岡山医療情報ネットワーク「晴れやかネット」の拡張機能「ケアキャビネット」の活用を推進してきました。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の流行のため、対面での会議や研修会がままならず、ケアマネジャーなど医療・介護・保健・福祉専門職との連携に、「ケアキャビネットのweb機能」を活用しました。セキュリティが保たれており、安心して使用出来ました。

この度は、浅口市内3カ所での圏域地域ケア会議では、ハイブリッド方式を利用したことを参加者から評価していただきました。圏域地域ケア会議は、民生委員や老人クラブ、商工会・郵便局・銀行や、警察・消防など、地域の様々な団体が参加して、活発に議論を交わしてきましたが、コロナ禍でも「ケアキャビネットのweb機能」の活用で、会議を開催できました。本年4月の介護報酬改定でも、ICTの活用が評価されました。加算されることになったのです。利用推進に拍車がかかります。セキュリティが保たれたICT「ケアキャビネット」の活用を進めてまいります。

今回で圏域地域ケア会議を始めてから6年になりました。参加者の皆さんは、地域の特性による問題点等の共有が図られ、積極的にディスカッションされるようになりました。コロナ禍の今年度は、感染予防対策を徹底して、出来るだけ大声での会話を控え、問題点をお互いに書面で交わすなど工夫しました。

また、令和3年3月18日には各団体の代表者が集まり、共有された地域課題の解決に必要な資源開発や地域づくり、さらには介護保険事業計画への反映などの政策形成につなげるための地域ケア推進会議を開催しました。

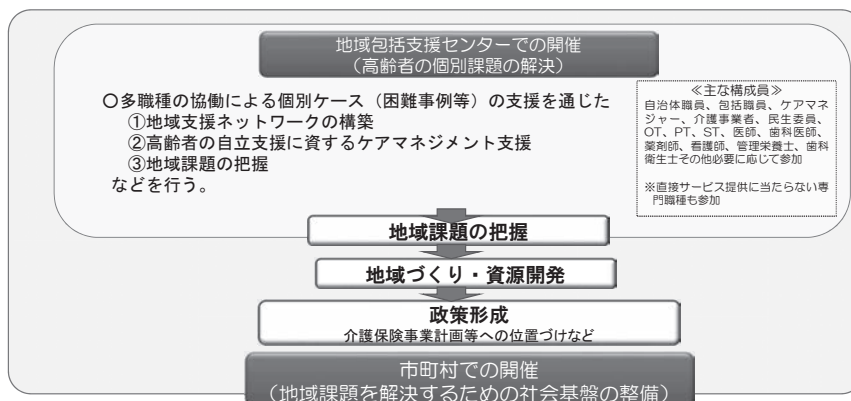
今後も浅口医師会は、市町と協力して「だれもが住み良いまちづくり」に努力してまいります。

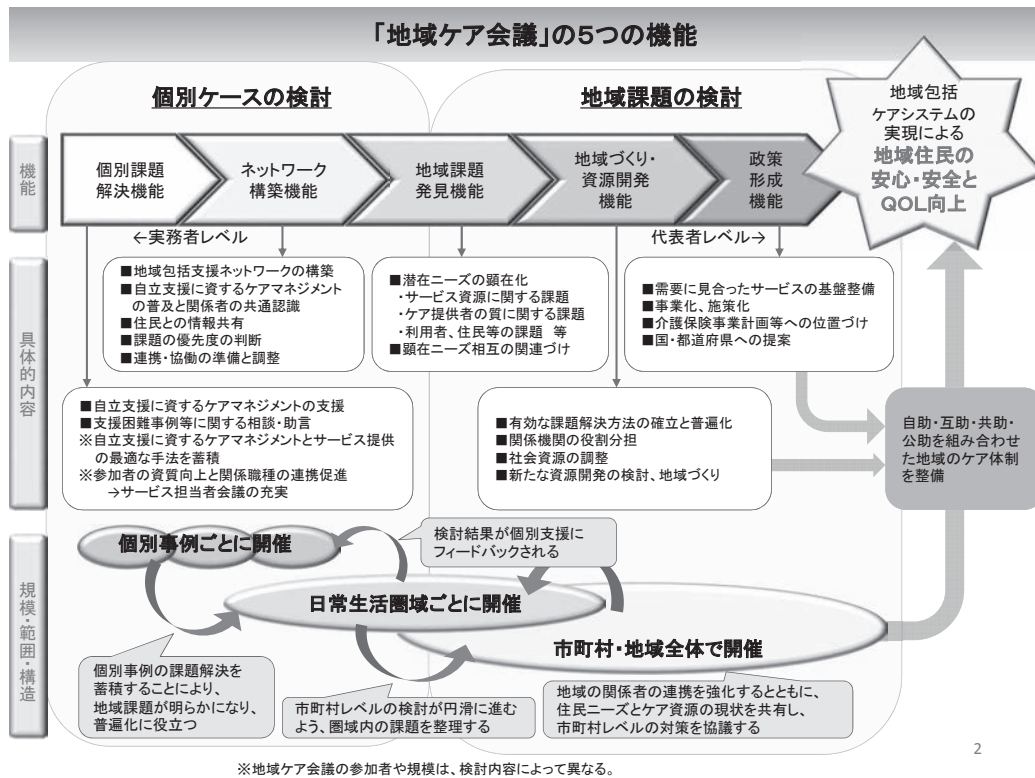
#### 地域ケア会議について

地域ケア会議は、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく、地域包括ケアシステムの実現に向けた手法。

具体的には、地域包括支援センター等が主催し、

- 医療、介護等の多職種が協働して高齢者の個別課題の解決を図るとともに、介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントの実践力を高める。
- 個別ケースの課題分析等を積み重ねることにより、地域に共通した課題を明確化する。
- 共有された地域課題の解決に必要な資源開発や地域づくり、さらには介護保険事業計画への反映などの政策形成につなげる。

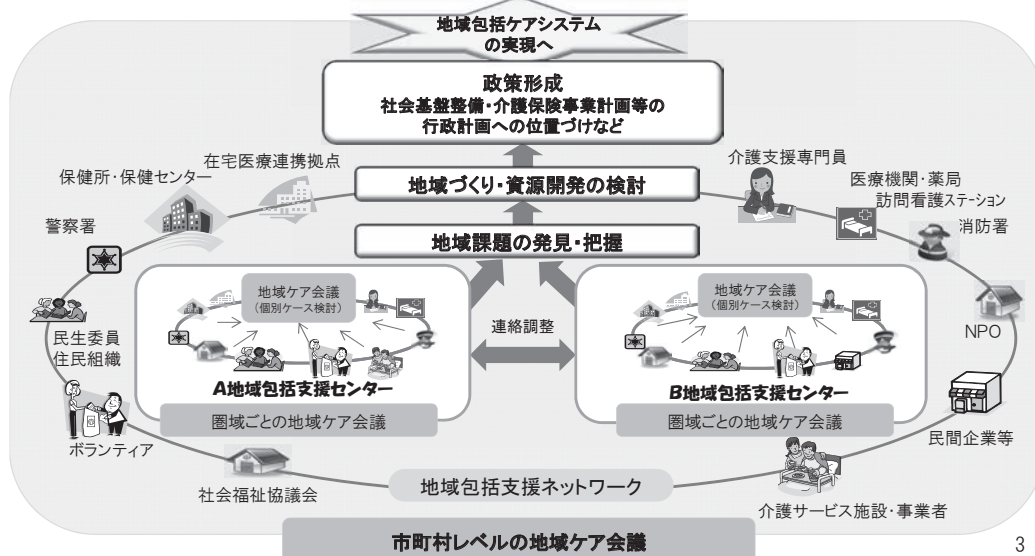




2

### 「地域ケア会議」を活用した個別課題解決から地域包括ケアシステム実現までのイメージ

- 地域包括支援センター(又は市町村)は、多職種協働による個別ケースのケアマネジメント支援のための実務者レベルの地域ケア会議を開催するとともに、必要に応じて、そこで蓄積された最適な手法や地域課題を関係者と共有するための地域ケア会議を開催する。
- 市町村は、地域包括支援センター等で把握された有効な支援方法を普遍化し、地域課題を解決していくために、代表者レベルの地域ケア会議を開催する。ここでは、需要に見合ったサービス資源の開発を行うとともに、保健・医療・福祉等の専門機関や住民組織・民間企業等によるネットワークを連結させて、地域包括ケアの社会基盤整備を行う。
- 市町村は、これらを社会資源として介護保険事業計画に位置づけ、PDCAサイクルによって地域包括ケアシステムの実現へとつなげる。

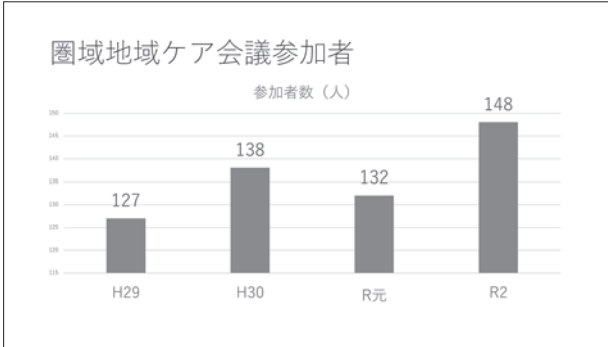


3

参考 厚生労働省 地域包括ケアURL

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/kaigo\\_koureisha/chiiki-houkatsu/?back=https%3A%2F%2Fwww.google.com%2Fsearch%3Fclient%3Dsafari%26as\\_qdr%3Dall%26as\\_occt%3Dany%26safe%3Dactive%26as\\_q%3D](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/?back=https%3A%2F%2Fwww.google.com%2Fsearch%3Fclient%3Dsafari%26as_qdr%3Dall%26as_occt%3Dany%26safe%3Dactive%26as_q%3D)

浅口市地域ケア推進会議  
令和3年3月18日(木)



- 圏域地域ケア会議 (R2新規参加団体)
- 玉島消防署西出張所
  - 晴れの国岡山農業協同組合
  - 郵便局
  - みんなで支えあい生活支援サポーター
  - 生活支援コーディネーター (第2層)

金光会場 (R3.1.21)

49名

オンライン  
6人

オンライン参加者

寄島会場 (R3.1.28)

52名

オンライン  
8人

オンライン参加者のグループワーク

寄島公民館

鴨方会場 (R3.2.18)

参加者  
47人

オンライン  
6人

組織代表の話

## 第6回 圏域地域ケア会議

浅口市寄島会場  
参加者 45名  
リモート 7名

グループワークでのみなさんの声より (主なものを掲載しています)

### 参加者数と参加回数

寄島会場(参加回数、人数)  
記入率のみ42%

回数	人数
1回	7
2回	8
3回	5
4回以上	9
不明	13

### コロナ禍支え合いをどうしていますか

コロナに感謝しない、させないよと声をかけている(相手は高齢者)3名(対簿・手洗い・マスク・ソーシャルディスタンス)(多数意見あり)

ケアキャビネット等(ICT)の活用、面会をリモートで行っている(多数意見あり)

入居高齢者にはオンライン面会やガラス越し面会を勧めている

コロナ禍で訪問づらい、控えている

風外に行くのを努力控えている

### 業務の中で気になること、困っていること

施設の高、高齢者がいない、家族が離れて住んでいる。

福祉の旗、コロナ禍と合っても連携が難しいといえない場合もあり、対応が難しい

見守りが必要な方が増え続けており、対応が難しい

施設の方で、子ども達の迷子になるからと助けを求めず、社会資源に頼る方が増えている。

施設入所者と家族との面会ができていない

気心が知れた者同士の離れも1人(2)にこもりきりになる

コロナ禍で毎月の見守りほどの程度であればよいのか?訪問時にみにしている人は30分程度かかる人もいる。

業が分らなくなったと相談を受けることがある。→認知症の最初のサインのように思う。

認知症になっているようなお客様との取引、財産を守る

一人でも多くの人に情報を提供すれば、活動しやすくなります(ケアキャビネットの登録)

認知症は予防できる疾患です(歯の検診が多い人は認知症になりやすい)

一人暮らしの高齢者の安否確認の方法が、今のままでいいのかわかることがある。いつ行っても会えない(不在だとは出てこない)ので、夜に検閲が休んでいるか確認している。

コロナ禍で飲食店の売り上げが減っているが、今後どうなるか心配

家族との関わりが少ない為、レベルの低下もある

### 活動中に心がけていること

コロナのピンチをチャンスにつなげよう。新しい生活スタイルの構築など

複数名で対応する

関係者や地域との連携で対応する

朝早く仕事で帰って帰っていて、おき方がおかしい高齢者がいるのか、丁寧に監視しています

楽しくコロナで短時間活動で内容を濃く

訪問先控え、電話で対応を心掛けている。今後ケアキャビネットの恒常化を望んでいきたい

見守り地域、顔を合わせ、あいづつを行い、その中に除け込んでいく。

コロナ禍での見守り学習隊で、地域を眺めるように点検確認しているつもりです。見守り隊が終わってから、ゴミを拾いつつ、町内を歩いている。

将来のことも見据えて、普段からご近所付き合いが大切だと思う

心がけていることは話がよく聞くこと

困っていることや悩んでいることが言える関係づりができるように気軽に話せるようにと意図している

話しにくい人、会いたくない人をそのままにせず、何かきっかけを作って話を引き出していきたい

何もない人もあいさつや趣味の話をし、話す機会をとるようにはしている

声かけをする。(散歩中の方にも)

色々な話をする事で本当のことがわかる

高齢者(後援)への声かけ、会話を通じて心の状態が少しづつ見えてくる

### 意見など

地域の活動やその場面に動いている方々と話すことができて良かった(多数意見あり)

多職種で、ニーズがそれぞれ違ってもや貴重なことが聞けてよかった。(多数意見あり)

行政・地区担当者の「敬重」がとても大切だ

コロナ禍での見守り・支え合いの話を聞いたかった

地域の中で認知症になっても歩いて行ける場所を再現したいと思います

町内会で活動することは「標準」を押し進めると敬愛された

大変貴重な会議に参加できていた感じが良かったです。来年もよろしくお願ひします

今日の内容を業務に活かしていきたい

地域ケア会議を続けることでさらに連携が深まると思った

今まで数回参加したが、今回がいよいよ自宅に参りました

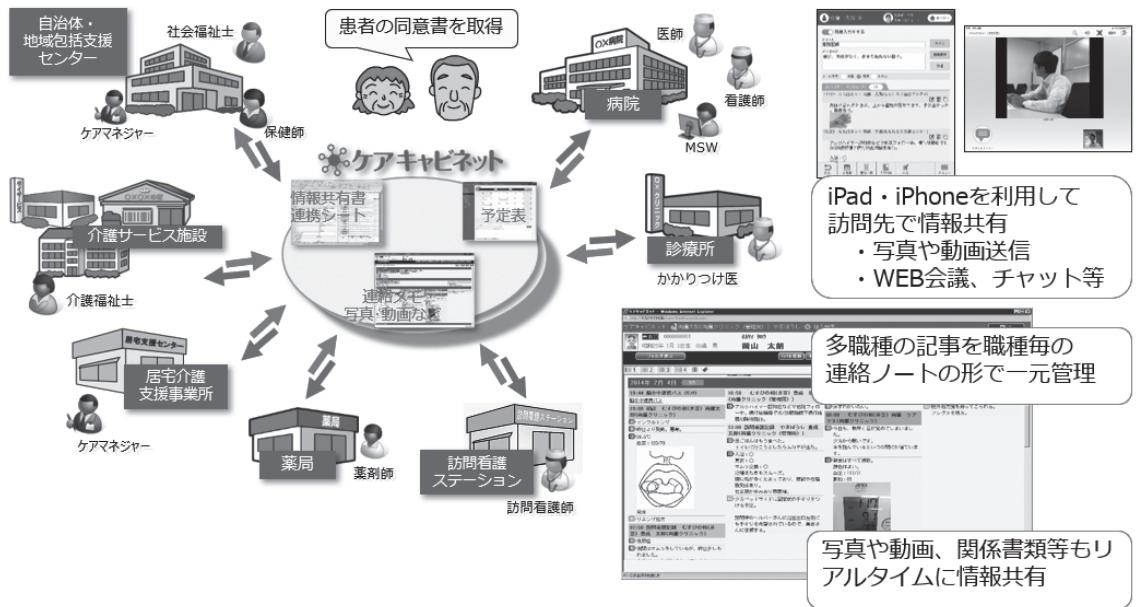
遠く分野の意見、考えが知りたい

オンラインでは7名の参加でしたが、グループワークの海蔵はオンラインでも話しやすかったと声がありました。

発行:浅口市地域包括支援センター 83.2

## ケアキャビネットの概要

- ・平成25年度より岡山県、岡山県医師会、岡山県病院協会の三者協働で設立した、「一般社団法人医療ネットワーク岡山協議会」がケアキャビネットを運営している。
- ・日々のケア情報・画像・動画・関係書類等の様々な療養情報を多職種間でリアルタイムに共有できるクラウド型多職種連携システムである。



## ケアキャビネット メイン画面 (記事表示画面)

患者一覧から患者を選択しますと、多施設・多職種の記事を1画面で共有します。また、登録された患者に関係している職員・記事の既読状況を確認できます。

**[患者基本情報エリア]**  
 選択されている患者の基本情報を表示します。  
 (患者氏名、生年月日、年齢、性別等)

**[4列表記の職種]**  
 1 列目: 医師  
 2 列目: 医師以外の医療者  
 (看護師等)  
 3 列目: 介護系スタッフ  
 (ケアマネ等)  
 4 列目: 薬剤師

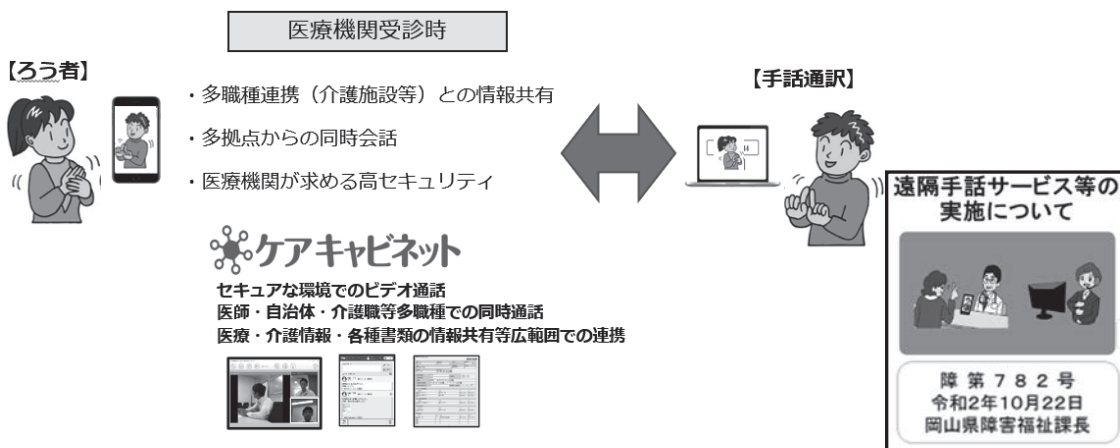
**1 列画面表示切替時**

**[記事表示エリア]**  
 記事情報を表示します。  
 最新の記事が上部に表示されます。  
 職種別に4列に分けて表示されます。  
 (1列の時系列表示に切り替えることも可能です)

患者に関係している職員の数、記事に対する既読状況が表示されます。クリックすると既読職員一覧が別画面で表示され、詳細状況を確認する事ができます。

## WEB会議システムを活用した遠隔手話サービス

- 複数拠点で同時接続ができ、医療機関にも既設されているケアキャビネットのWEB会議を活用する事ができます。
- ケアキャビネットです事前情報(ろう者の健康状況等)を共有した上で、遠隔手話をWEB会議で行う事になればケアキャビネットです遠隔手話サービスを利用するメリットとなります。
- 対応記録をケアキャビネットに残しておけば保健師・医療機関が変わっても情報共有ができます。



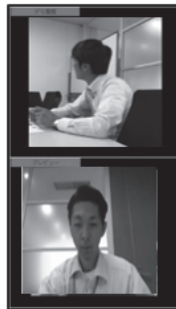
## WEB会議システム概要

- ・ケアキャビネットが利用できる全ての機器でWEB会議システムが利用できます。
- ・パソコン・iPad・iPhoneで利用可能です。(ソフトのインストール(無料)が必要です)
- ・「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」に対応している環境となるため、退院時のカンファレンス等、診療報酬・介護報酬算定にも活用可能です。
- ・リハビリの担当者会議や、転院先病院と患者家族との面談等でも活用しています。

### 【パソコン 利用時】



### 【iPad・iPhone 利用時】



### 退院時カンファレンス関連の 診療報酬・介護報酬

医療機関	
退院時共同指導料 2	400点
3人以上が共同指導する場合	2,000点加算
在宅医が参加する場合	300点加算
ケアマネジャー	
退院・退所加算 (カンファあり)	
連携 1回	600単位
連携 2回	750単位
連携 3回	900単位
在宅医等	
退院時共同指導料 1	在支診 1500点 それ以外 900点
訪問看護ステーション	
訪問看護情報提供療養費 3	1500円

2018年度診療報酬改定より、リアルタイムでのコミュニケーションが可能な機器を用いて他施設とのカンファレンス・退院支援カンファレンスに参加した場合でも、算定可能になった事からシステム構築を行いました。

※WEB会議に招待される方については、会員外でも利用できます。

### 【お問い合わせ先】

## 株式会社 両備システムズ

岡山本社：岡山市南区豊成2-7-16

TEL (086)264-0133

FAX (086)264-9343

ヘルスケアソリューションカンパニー  
地域連携ソリューション部

晴れやかネット事務局 〒700-0024 岡山市北区駅元町19-2 岡山県医師会館5階

TEL 086-259-2077 FAX 086-259-2088

E-mail: info★hareyakonet.jp (★を@記号に置き換えてください)



## 岡山プライマリ・ケア学会

〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町19番2号(岡山県医師会内) 岡山プライマリ・ケア学会

TEL: 086-250-5111 FAX: 086-251-6622 ご意見・お問い合わせはこちら [gakkai@p-care-okayama.com](mailto:gakkai@p-care-okayama.com)